



2008~2009年度
国際ロータリーのテーマ
夢をかたちに
2008~2009年度
RI会長 李東建

Weekly Report

創立：1980年(昭和55年)1月10日
会長：松井 善則
幹事：田口 豊
クラブ広報委員長：平野 好道
例会日：毎週木曜日 PM12:30~
会場：ヒルトン名古屋
事務局：460-0008
名古屋市中区栄1丁目3-3
ヒルトン名古屋910号
TEL：052-211-3303
FAX：052-211-2623
MAIL：2760nagoya@mizuho-rc.jp
URL：http://www.mizuho-rc.jp/

第1402回例会

~世界理解月間~
クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2009年2月26日(木) 曇 第32回

司会：梅村昌孝会場委員
斉唱：「日も風も星も」
ゲストスピーカー：米山奨学生 陶静さん
ビジター：江南RC 伊藤鶴吉さん

会長挨拶

松井善則会長

尾張地区のお嫁入りについて

この地区では、婚礼道具を運ぶトラックはどんなことがあっても後戻りをしないというしきたりがあります。後戻りするということは花嫁の出戻りを暗示し、縁起が悪いからであります。

一昔前には花嫁行列を妨害することがお祝いでした。奥三河の設楽町下津具では最近まで花嫁一行が婿の家へ向かう途中、材木や馬車など色々な方法で通行妨害をして行く手を邪魔するというしきたりがありました。このような行為をたくさんしてもらった方が、それだけ祝ってもらったことになり喜ばれたそうです。また、愛西市大井では「嫁さんの顔を見せる」という花嫁行列の前に立ちだかる人に菓子を渡して通してもらうため、仲人は赤と白の袋に菓子を入れてもって行ったそうです。もっと強烈なのは稲沢市片原一色の風習で、若い衆が夜中に集まり、村の地蔵さん、墓石、大八車、肥桶などを新居へ担ぎ込んでお祝いし、その家では祝ってもらったお礼としてお酒をふるまうというものです。新婚家庭ではその後の片付けが大変だったようです。

色々なケースがありましたが一線を越えるためにはある種の試練が必要だと考えられていて、儀礼的な妨害を乗り越えてこそ夫婦はより固く結ばれるものと信じ、妨害やいたずらをお祝いと称していたのであります。このような慣習を通り越してきたのですから離婚も少なかったように思われます。現代の若者達も大いに参考にしてもらいたいものであります。



幹事報告

田口 豊幹事

・次週3月5日(木)例会終了後13時35分から9階「ことぶきの間」にて第9回理事会を開催致します。

出席報告

関谷俊征出席委員

会員71名 出席46名 (出席計算人数53名)

出席率75.4% 2月19日は補填により 98.4%

臨時例会変更のお知らせ

名古屋南			3/18(水)	3/25(水)※
名古屋北			3/20(金)※	
名古屋東		3/9(月)		3/23(月)※
名古屋守山		3/11(水)		
名古屋みなと		3/13(金)	3/20(金)※	
名古屋東南	3/4(水)			3/25(水)
名古屋和合		3/11(水)	3/18(水)※	
名古屋名東	3/3(火)※		3/17(火)	
名古屋名北	3/4(水)			
名古屋千種				3/24(火)※
名古屋名駅		3/11(水)※		
名古屋昭和	3/2(月)			3/23(月)※
名古屋名南				3/24(火)◇
名古屋丸の内	3/5(木)			
名古屋東山			3/19(木)	
名古屋葵			3/19(木)※	
名古屋清須		3/10(火)	3/17(火)※	
尾張中央		3/11(水)		3/25(水)
名古屋城北			3/17(火)※	3/24(火)

(注) ※は休会・その他理由につきビジター受付はありません。
◇はサイン受付が17:30~18:30となります。

お知らせ

・2009年4月1日より知立ロータリークラブの例会会場並びに事務局の置かれている「知立セントピアホテル」が「ホテルクラウンパレス知立」へと名称変更致します。尚、変更はホテルの名称のみで住所、電話番号、FAX番号等に変更はございません。

ニコボックス

関谷俊征ニコボックス委員

・2月19日の西名古屋分区大会では委員会のメンバーはじめ会員の皆様には大変お世話になりました。お陰様で大成功に終わることができました。 **増田 盛英さん**
・先日の分区大会、お疲れさまです。大変なご協力ありがとうございました。 **松波 恒彦さん**
・分区大会お世話になりました。

松井 善則さん

・2月19日西名古屋分区大会、近藤ガバナー補佐、増田分区大会実行委員長をはじめ関係者の皆さん大変ご苦勞様でした。大成功裡に終えられおめでとうございました。 **大島 浩嗣さん**
・先週の分区大会が滞りなく盛大に開かれました事、ご同慶の至りです。近藤ガバナー補佐、松井会長、増田実行委員長はじめ関係者各位に心より敬意を表します。本当にご苦勞さまでした。 **野崎 洋二さん**

・分区大会実行委員長増田さんをはじめ大会役員の方お疲れさまでした。大盛況で楽しく過ごさせていただきました。

松岡 道弘さん

・暖かくなりました。今年は出席率がアップしております。

内田 久利さん

・分区大会成功裡に終えることができました。増田大会委員長、松波・天野両副委員長はじめ委員の皆様、ホストを務めていただいた松井会長、田口幹事はじめ会員の皆様、本当に御苦労さまでした。心よりお礼申し上げます。2月18日は妻の誕生日でした。綺麗なお花ありがとうございました。

近藤 雄亮さん

・今日は結婚記念日です。

八木沢幹夫さん

・家内の誕生日にお花をありがとうございました。西名古屋分区大会が無事に終わり、皆さんお疲れさまでした。

田口 豊さん

岩本成郎さん・本多清治さん・伊藤豪さんを祝う会

2月5日18時より、名古屋東急ホテルにて岩本成郎さん(旭日少綬章)、本多清治さん(国税庁長官表彰)、伊藤豪さん(黄綬褒章)を祝う会が名古屋瑞穂RC有志により開催されました。



委員会報告

分区大会実行委員会:増田盛英委員長

皆さんこんにちは。先週の分区大会にご参加いただいた他クラブの多くの皆さまからお誉めのお言葉をいただき大成功に終始致しました。これもひとえに実行委員はもとより会員の皆様方、又事務局員の皆様方の絶大なるご協力の賜物であると実感いたしました。約半年間かけ15回の実行委員会を開催した成果が表れました我がクラブの全員で成し遂げた結果であります。全会員の皆様にご心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

卓話

米山奨学生 陶静さん

日本の株式市場と企業財務 ——証券恐慌以降バブル崩壊まで



1980年代、株価は上昇し89年末に最高値をつけ、現在から振り返ると日経平均株価の上昇度、配当利回りの低下、日本と各国の株価収益率の比較などから、80年代後半は株式市場においてバブルが形成されました。バブル経済、特に株式市場のバブルを生み出した条件には、プラザ合意後の円高不況に対する政策的対応、企業財務面の要因は無視できません。戦後当初、個人持株比率は高く法人持株は低い状況から出発して証券恐慌以後、個人株式保有率は低下し、法人株式保有率は上昇、中でも法人企業間での株式相互持合いが高まっていくようです。いわゆる株式保有の法人現象化です。個人所有と法人所有の大きな違いは利潤証券としての株式投資と、支配証券としての株式取得ということです。具体的には法人は系列化やグループ化のために株価を買う時に利回りを無視したため、法人買いによって株

価は上昇し、個人投資家の利回りの採算範囲を超えてしまいました。結局、個人投資家は株式への投資をあきらめ、他の投資にシフトしました。株式市場と企業財務の接点におけるもう一つの大きな変化は企業の投資形態の「株主割当・額面発行」から「公募・時価発行」へ移行したことです。それは株式の収益率の低下を招き、株価圧迫要因となりました。そしてもう一つ重要なポイントは額面発行が市場の実勢を反映することができないということです。そこで時価発行が登場しました。時価発行は額面発行と違い、資金調達を市場メカニズムによって調整できる可能性が高いと期待されました。しかも、時価発行を推進した主体は、調達コストを低下させたい発行会社と引き受け機能の拡充を意図した証券会社です。

以上のような株式所有構造の変化を背景として、企業財務が大きく変化しました。法人による株式相互持合いという日本特有の所有構造を基盤として、株価は株式の需給面から高水準に押し上げられましたが、その中で企業は証券市場から大量の資金調達(エクイティ・ファイナンス)を行い、他方では株式市場への資金運用(特金・ファントラ)によって膨大な資金を株式市場に流入させ、株価の上昇をもたらしました。一言でいえば、80年代には資金調達面においても資金運用面においても証券化が進行したということです。エクイティ・ファイナンスは資金調達面で特徴づけられる方式です。低コストで資金調達できるという有利な点があったため、企業の資金調達は借入金から証券市場に移行しました。この転換社債は安全性と株式の値上がり益の両者の性格を兼ね備え、株式に転換することができる社債であるため、企業によく利用されました。このような資金調達に対して、運用が設備投資から金融資産投資に移行しました。80年代前半には配当を抑えて企業が積極的に設備投資を行いましたが、後半になると短期利益を目的とした「財テク」による金融資産へシフトしました。また、株式の売買回転率においては事業法人と信託銀行の売買回転率は80年代後半から上昇したことが明らかになり、株価は上昇を続け歴史的な最高値になりました。当時はこの株価上昇はバブルとして認識されることはありませんでしたが、90年に株価が下落を開始し、90年代に入ってバブルという言葉が流れるようになりました。このバブル崩壊による株価と地価の暴落は不良債権問題を引き起こすことになりました。バブルの頃は本業より土地や株を売買する財テクで儲けている企業が多くありましたが、バブルが崩壊して地価や株価が下がると、企業は財テクで利益を得ることが困難になります。こうして日本は深刻的に不景気になりました。1990年からの不動産向け融資の総量規制により、1991年から95年頃まで、不動産価格の大幅な下落が続き不良債権問題は徐々に悪化していましたが、危機的な状態とは認識されていなかったのです。景気が回復すれば金融機関も不良債権のほとんどを回収できるとみていました。しかし、不動産価格は下落を続けたことにより、金融機関は信用不安を恐れて、不良債権問題の深刻さを小さめに発表し続けました。

このように90年代以降の株式バブル崩壊の前提として企業の過大投資が、自己資本利益率の低下として潜在したことがあらためて想起されます。

今週卓話

3月5日(木)

卓話講師:2008~2009年度地区RCC副委員長 松崎美都子さん
テ - マ:地区社会奉仕とRCC(RCCって素晴らしい!!)

次週卓話

3月12日(木)

会員卓話:宗宮 信賢さん
テ - マ:腎臓病あれこれ

次々週行事

3月19日(木)

I.D.M 18:00~20:00

場 所:ZETTON ランの館2F「THE ORCHID ROOM」